

二五

元
殲

音調書

[illegible]

死に年月日 同前八月二日
 死に場所 中前五将
 死に時り状況 三 筋 筋 カタにカ

右の通承知、てあまの角致し、し

昭和22 年三月一日

市入籍番号 [redacted] 市級上水 氏名 [redacted]

市本籍地 [redacted]

市現住所 左右

市所属部 三五級警

備考

一本調書は死没者ノ身上関係一切と處理するものなり、其ノ重
 要。詳細に記入して下さい
 二他人ノ関与ノ事知、其ノ事項は其ノ旨未定、余白に記入して下さい

昭和22年三月一日

元海軍軍人現況不明者調書

班番番號 64

所轄(詳令年月日)
九〇一空
留守塘官者

等 氏 名 生年月日 入籍番號 本 籍 地
二 夢 氏 名 生年月日 入籍番號 本 籍 地
父 氏 名 生年月日 入籍番號 本 籍 地
村大字

既 知 事 項
一、佐世保人事
業務費資料
二、世話課(科)
資料
三、家族(身寄)
承知事項
一、(何)遺骨有無()
(何)遺留品有無()
是非承知した事項
戦没(行方不明)の場所
戦没(行方不明)の年月日
戦没(行方不明)の原因
戦没(行方不明)の時に入
されていた戦士部隊名

大分

所屬部隊に關するもの
内地歸還年月日 部 隊 等 氏 名 入籍番號 現 住 所
第海護 大 氏 名 入籍番號 現 住 所

の隊部
一、組成の時期及び場所(昭 年 月 日)
二、内地出撃の時期及び場所(昭 年 月 日)
三、進出要領
一、本人とは何
處で何時迄一
緒にいたか
二、その時の本
九〇一空
自昭和十九年七月八日
至昭和二十年八月二十三日
九〇一空
とSP 誕生

57-11

終 結 處 分	二 段 調 査 以 後 に お い て 報 告 の 入 手 し て い る 情 況	乗 客 の 死 亡 の 現 況		乗 客 の 死 亡 の 現 況		乗 客 の 死 亡 の 現 況		乗 客 の 死 亡 の 現 況		乗 客 の 死 亡 の 現 況	
		五、交戦（被害）の状況	六、終戦時の状況	七、終戦後の状況	八、捕獲の状況	九、捕獲後の状況	十、捕獲後の状況	十一、捕獲後の状況	十二、捕獲後の状況	十三、捕獲後の状況	十四、捕獲後の状況
(公)		(イ) 空襲 (ロ) 陸襲	(イ) 所在地 (ロ) 隊員数 (ハ) 捕獲者数 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	(イ) 捕獲者 (ロ) 捕獲地 (ハ) 捕獲地 (ニ) 捕獲地	
(明)											
(不)											
(生)											
復員											

57-12

22839

328

死 受 害 則

本籍地

現住所

所属部隊 三三特根 部隊司令部指揮小隊

入隊年月 昭和八年一月一日

官階 海軍水兵長 現 兵糧水兵(附別兵)

昭和八年九月十五日 不明

不明 昭和八年九月十五日 不明

三三特根司令部附下 戦死時近見被員とテ勤務

戦傷、概要

昭和十年八月二一日

姓名(受領地位) 野村 芳雄

昭和十年八月二一日 戦死時近見被員とテ勤務

昭和十年八月二一日 戦死時近見被員とテ勤務

昭和十年八月二一日 戦死時近見被員とテ勤務

昭和十年八月二一日 戦死時近見被員とテ勤務

602

氏 名

三枝 新藤同会部指導員

官 職

指導員

入 籍 地

602-10

- (一) 本邦(海外)又(海外)に在る者、其の身分、地位、職業、年齢、性別、婚姻、子孫、その他一切の事項を調査し、その結果を本邦に報告する。
- (二) 本邦に在る者、其の身分、地位、職業、年齢、性別、婚姻、子孫、その他一切の事項を調査し、その結果を本邦に報告する。
- (三) 本邦に在る者、其の身分、地位、職業、年齢、性別、婚姻、子孫、その他一切の事項を調査し、その結果を本邦に報告する。
- (四) 本邦に在る者、其の身分、地位、職業、年齢、性別、婚姻、子孫、その他一切の事項を調査し、その結果を本邦に報告する。
- (五) 本邦に在る者、其の身分、地位、職業、年齢、性別、婚姻、子孫、その他一切の事項を調査し、その結果を本邦に報告する。

2143

証 事	瑞 恩	略 登	生 年 月 日	本 籍 地	現 住 所
給 賞 状 書	戦 役 外 の 功 績	給 付 日 付	工 等 工 員		
瑞 恩 の 功 績	瑞 恩 の 功 績	瑞 恩 の 功 績	瑞 恩 の 功 績	瑞 恩 の 功 績	瑞 恩 の 功 績

第百三海軍工作部現地採用工員證書

昭和十九年五月十五日

71-10

死歿者調査書

本籍地

現住所

所属部隊

入團年月

等級

内地港灣出発の

年月日

外地到着

年月日

勤務概要

疾病又没傷

年月日

病名又没傷部位

死因又没傷時

同右

比島マニラ一三運輸部セブ島支部 徴備船第三漁徳丸

昭和十八年九月五日

役種

油差

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

昭和十八年九月五日

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

死亡年月日

昭和三十一年二月一日

死亡場所

広島市南区上落

死亡原因

戦病

死亡時状況

三月七日高熱

右の通り承知しておきます。以上申告致します。

昭和三十一年二月一日

申告者氏名

軍

政務局長

氏名

本籍地

氏現住所

所属部隊

広島市南区上落

備考

石井氏名

石井氏名

本籍	廣東省
現任	廣東省
所屬部	廣東省
年月	民國
身段	長
他處	廣東省
父	廣東省
勤勞	廣東省
年	廣東省
為名	廣東省
不病	廣東省
戰時	廣東省
全年	廣東省

[illegible]

不現本籍地
所屬部隊

考
備
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

G 785

[illegible]

香川縣

昭和二十三年四月二十日

元々軍事部及び文部省
佐世地方復興局及び理部人事課軍人係殿

戦没者に関する件回答

佐世地方復興局及び理部人事課軍人係殿
事取調書別紙の通り送付致し

記

水谷長

本籍地

別紙係

此の調書記載の死に別紙の指定に付左様申付下す

記

事故調査書

等級氏名
本籍地

一 身主事故概要

同入、三ノ運轉部、今出張所、沙居、万感、二乗組中、知
昭和三年三月十五日、米軍同島、進攻上、乗陸、之、陸戦
隊、海軍部、之、隊、之、沙居、之、封鎖、同、平、四、月、十五日、命、之、依、
七ノ島、北方地区、之、前進、中、同年、之、月、末、より、ヤ、二、罹、病、同年、
八月十五日、海軍司令部、より、命、之、依、り、停戦、之、終、集、結、地、矣、
之、移動、中、身主、衰弱、遂、之、此、之、如、り、

一 此、之、期、日
昭和三年八月二十七日

一 此、之、場所
七ノ島、中央、山中

調査員、姓名、元、海軍部、之、支、隊、長

32849

死 歿 者 調 書

本籍地

現住所

所属部隊

入国年月日

官等級

内地滞在年月日

死期年月日

勤務概要

仁

加

第百三海軍施設部セブ出張所

昭和拾八年七月一日

彼程 第三國民兵役 兵役

衛生兵

上等衛生兵

氏名

入籍番號

不明有ルモ土月上旬カワイト住ス

不明

昭和十八年七月一日難病ヲ患ヘテ入国即日克義官署ニテ

右衛生兵トシテ若國市中ノ海軍病院ニテ教育ヲ受ケ十月

末吳海兵團ニ歸リ十月上旬、フィリピン、マニラノ海軍病

院ニ勤務ス

昭和十九年三月十日頃 マニラヨリレイテ島着ルマツノ海軍
施設部勤務中派遣サレシ

昭和十九年三月マニラ海軍病院ニ帰任スルヤケ命令カ出テ様子
タル輸送ノ困難並ニ命令全系統ニ相違アリタル等事情ニテ
施設部ニ在籍シ儘トス

昭和十九年八月マニラ海軍タクロバンニ轉任ス

今年九月三日セブ島ノセブ市ニ轉任ス

同年九月十一日より本格的ナ攻撃ヲ受ケ次第ニ北部ノ山地
ニ入り後天山ノ陣地ニ入ル

昭和二十一年三月二十六日警備ハセバ市南方ヨリ上陸ヲ開始ス

今年四月十六日天山ノ戦ヲ奪ヒ北部ノ部隊ト合流スルヲ
北上セラルモ中途ニ断念シ周ビ天山ニ帰リテ戦闘ス

3204

現住所	同	同
本籍地	昭和二十一年一月十九日	
右申告ス		
死者年月日時刻及場所	昭和二十一年八月十九日午後三時 天山北方山地	
受傷又ハ戦傷状況	勤務ノ概要實後記ノ通りニテ戦傷死	
受傷部位	下腿骨折貫通銃創	
受傷年月日	昭和二十一年八月十八日	
昭和二十一年八月十九日 遂ニ死亡ス		
昭和二十一年八月十八日 米軍ノ襲撃ヲ受ケ下腿骨折貫通銃創ヲ受ケ天山中ニ倒レタ儘 同年八月二十一日戦友ニ救サレタモ出血多量ト營養失調等胸膈ノ衰弱、		
昭和二十一年八月十八日 米軍ノ襲撃ヲ受ケ下腿骨折貫通銃創ヲ受ケ天山中ニ倒レタ儘 同年八月二十一日戦友		

68311

氏名	第吉三海軍施設部出所	官等級	海軍工員
	入籍登録		

32849

事實證明書

所屬部隊 第三海軍施設部セブ出張所

官等級名 海軍上等衛生兵

年 月 日生

一 本籍地

一 現住所 同 右

右之者昭和二十年八月二十九日十五時フィリピン
セブ島ニ於テ戦傷死シタル事ヲ證明ス

昭和二十一年一月十九日

614

所屬部隊

第百三海軍施設部出張所

一 本籍地

一 現住所 同

右

官等級氏名印

海軍工員

656-10

729-6

46608

本籍地	現住所	所屬部	入團年月	官階級	内地滞留開始年月日	外地滞留年月日	勤務ノ概要	發病(受傷)年月日	病名(受傷部位)	發病(受傷)又ハ
		南方軍駐隊司令部	十六年八月	伍	氏名 生年月日		元、年、丁、丑、年、中、隊、長、 年、三、月、八、日、に、左、右、の、部、隊、 に入、任、命、さ、れ、た、と、し、て、 年、八、月、日、に、左、の、部、隊、に、 入、任、命、さ、れ、た、と、し、て、	二十、六、月、日、に、以、降	マラリヤ	マラリヤ、熱、度、大、調、子、供、り、全、身、マ、ラ、リ、ヤ、

死 災 害 出 世

511

死亡年月日時刻及場所

エ丁、入、エ丁日次、カウヤン

右申書ス

昭和丁二年 月 日

氏名	所屬部隊	現住所	本籍地
入嶺番號	官等級	上	山

備考

- (一) 本調書ハ係隊長又ハ發務取扱者等ニ於テ吳知方復員局人部部長宛通報シ非スト認ムルモノノミニ付記載ス
- (二) 吳知在場ノ特務士官、准士官、下士官、兵ニ付記載ス
- (三) 同府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記載ス
- (四) 知得シアル範圍ニ於テ出來得ル限り詳細ニ記載ス
- (五) 他人ヨリ聞キテ承知シタル事項ハ各當該局ニ相手方ヲ記載ス
- (六) 送付 知

吳市

吳知方復員局人部部長宛

華庚 護明書

元海軍六廟

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

一北七海月日

昭和辛酉八月廿六日

丁未夏四月申亥然獲身病瘵し後即申病日甚
 病者言力衰動之未人曰事止新舊（此日亦人死現此及
 工費同名信并奉中）是日止此病作一以請我知して録
 録打し人事月測之時直書に少作即王務録に年
 著此方由同獲止方在少時問候と海軍醫院に入院
 于是也為志恒然と意欲同像止す想三ヶ月に刻磨
 術果有願養識有明あり死七也（此の間）附添
 有疾す）死後厚意に要望に解別平術を結采
 腔髓造形を月主也死七一に之の七に造中を水以
 昭和二年八月二十日

元海軍三廟

端
惠

畸症

生年
月
日
本籍
地
現
住
處
一

夢百三詩圖五作鄧現地探用王晨調書

天 地 人 三 才

2001

100

標用剪

換用年月日

繪耕(日給)

日
時

狀

端

卷之四

五
五
五

張氏文外集

命
壽
最
用
增

興寶

平脫(四生)

1997



大正十一年(癸亥)

79

鳴分

3

卷之四

1890

10

(附錄)

1539

壁

籌西三浦軍工炸部現施掃屏工員調書

東坡先生集卷之五

65-12

標
用
前

癸卯年月日

給料（日給）

野火與

場所

第 四 章

五
官
五
五

四
頭
以
外
人
者
也

與
實
五

100

第百五十五卷 新附 昭和十九年十月

五月

戰死

北緯義 北緯 ノロシ ウミタ

७४

元一五五

新刊金瓶梅

理學一書

100

田(獵用)

11

11

100

100

1

10-11-12

10

10

801

通關、月日等處多有遺失。

イニハク山楽二十一年九月四日



名	氏	等	所	職
名	氏	等	所	職

大 會
報 告

古語

イ六ノク山二十一年三月十日

卷之六

卷之四

注意

一、本人ノ在籍地ノ府縣ニ別紙ニスル
二、情況説明ニハ出家ノ略圖ヲツケ加ヘルコト。

資料通報名票

(甲)

[illegible]

未帰還者等の番号

4006

25-11

死沒者調書

遷
住
所
地

部隊

宣統元年

卷之四

卷之五

卷之四

勤務概要

讀書(卷八)詩經

病石是陽部位

養病(愛場)又

穀梁時，秋，

宣統元年十月

不第此二合

天下為街產我

六年六月廿二日

長興

生年月日

平明

四指山後邑

此堂處一靜福

和光二年十一月

和光二年八月

マナブ

古初ハマニヤ書

2

宣和二年六月

10

卷之六

役禮方二公次馬吳

卷之六

五

卷之五

卷之三

水浸意能上共一而說即集

而律史遂主太平律書之

卷之五

書齋

卷之七

卷之五

一、以時方學爲要

考

吳地著復員局人事部長宛

戦病死確認資料

一 申告者 三二轉根 下士官

一 現住所 [redacted] 方

一 戦病死者 海軍水兵長 [redacted]

一 本籍地 [redacted]

一 戦病死年月日 昭和二十年九月五日〇三三〇頃

一 病名 熱帯熱「マラリヤ」

一 戦病死場所 「タバオ」北方約三十五杆第二分岐點 (隊でつけた地名) の山小屋

一 所属部隊 第三十二特別根拠地隊

一 遺骨遺留品の處理 九月二十五日同地に埋葬遺品も全部埋葬せり

戦死状況

昭和二十年七月十三日發病(熱帯熱マラリヤ)同日戦戦病院入院下旬退院せりも糧食無く戦死十四名中九名死亡せり
 [redacted] は八月二十八日再度發病し身体衰弱し九月二日無言無食となり五日新盛に死亡せり
 [redacted] 残りたる戦友二人にて骸骨掘り新しい軍服に毛布で包み雨衣で覆ひ埋葬遺品も全部埋葬せり

[illegible]

35

92763

[illegible]

右申
路申
和
年
五
月
五
日

考	氏	名	籍貫	現任所	職稱	學歷	經歷	備註
考	氏	名	籍貫	現任所	職稱	學歷	經歷	備註

[illegible]

吳興 吳興縣知事 金和長 記

死亡證明書

死者 海比奈百參施設部士 班
勤務中昭和二十年七月十日午後八時
於本施設病室死亡之旨上之證明書
昭和二十年七月十四日

44635

死 歿 者 訓 章

176

本籍地	現任所	所屬部隊	入國年月	官等級	内地港灣出發年月日	以地到着年月日	功勳、新要	遺病(受傷)年月日	名(受傷部位)
		部隊(第百十二特別輸送艦)	昭和十八年八月一日	水兵	昭和十九年八月十日	昭和十九年十月	陸隊 防空機銃員 三五機隊銃(車)	昭和二十年六月十日	昭和二十年六月十日 下山時道不能
					氏名	生年月日			
					入籍番號				

（受傷）又ハ戦死
時ノ状況

官決（小銃）

死亡年月日
時刻及
場所

昭和三年九月十日 時刻不明 トウカ
（山ノ島山ヤリヤ）

右報告ス

昭和三年 六月 九日

比島方面

籍地

任所

右 同

隊部

部隊

官等級

二曹

氏名

入籍番號

入籍番號

備考

右（中佐）部隊ニヨリ有線電報機ニ於テ編成セタリ、

- 一本圖書ハ部隊長又ハ左隊員等地方復興局人ト部長死後報告スベキ責任者ニ於テ知得シアラズ。既ムルモノイミニ付記載ス
- 二典範在籍ノ特務士 士官、下士官兵ニ付記載ス
- 三同隊人ハ勿論他隊員トモニ於テモ記載ス
- 四知得シアル範圍ニ於テ出資セタル隊員詳細ニ記載ス
- 五他人ヨリ聞キテ承知シタル事項ハ各省該機ニ相手方ヲ記載ス

175-50

邦·海·陸

紙面記載上の注意を覚えて下さい。(※及び表裏の各欄は記載に及びません)

4222/

美西三海軍工廠部現地探用工員調害

第百六十五卷
國朝

72-12

卷之七

現存

大同

卷之五 雜著

入
卷五十三
卷五十四

畢應

記
歸
黃

三
六
新
子

10

元和十六年
十二月三十一日

係世保

民國十七年
十一月十七日

千軍萬馬印成也

力
命
一
月
三

八之

10

昭和三十二年九月之日

肝火上升 肝火上升 肝火上升

7257

252-4 21.6 / 公署

記事	消息	略歴	職年 本籍地 現住地 家族	採用年月日 採用場所 採用理由 採用結果	採用年月日 採用場所 採用理由 採用結果
一等工員 昭和四年十月十五日	戦死 昭和二十年九月 バタビア島	昭和二十年九月 バタビア島 戦死	昭和四年十月十五日	昭和二十年九月	昭和二十年九月

第三海軍工作部現地採用工員調査

昭和二十年九月

53200

53200

昭和二年三月二十日
南軍司令官
報告

南軍方面 戦況
右ニテ一〇一五(分隊)收容所ニ戦病兵(マラリア)ニ
b、

復員部

348

寫

死亡現認書

氏

名

日生()

本籍及び筆頭者氏名

三職

業 軍属

四死亡の日時

昭和辛酉十月辛未日時刻不詳

五死

因

悪性マカリヤ

六死亡の場所

比島ルソ島王テレルバ病院

七現認の事由

通説を通し司令部の書類(名簿)により確認

八遺骸遺品の処置等

死体は火葬され、所有物等は他に残されたほか、私道
髪と預金通帳(一通)を持参遺骸半分は墓に留置如
く厚作残りと預金通帳は遺族に渡す

是れが遺族の署名と印である

九道族の住所、氏名本人との柄

妻

長男

右の通り相違ありません

昭和三十年五月十日

本籍

職業農業

歸郷先本籍に同じ

府紀當時の所属部隊及び身分

比島海軍施設部 組造船部 (海軍編制) 監督軍属

右現認者氏名

日生

出典不復員兵務局

軍人

死 歿 者 一 回 書

本 籍 地

現 住 所

所 屬 部 隊

入 隊 年 月

官 等 級

內 務 省 出 身 年 月 日

現 在 部 隊 年 月 日

動 員 後 之 現 在 地

現 在 部 隊 年 月 日

現 在 部 隊 年 月 日

現 在 部 隊 年 月 日

現 在 部 隊 年 月 日

上

同

上

美 國 海 軍 上 山 三 三 三 陸 隊 陸 隊 陸 隊

昭和八年十一月一日

復 員

兵 隊 一 兵 隊

海 軍 兵 隊

氏 名

生 年 月 日

入 隊 年 月 日

昭和八年十一月一日 吳 光 光

昭和八年十一月一日 吳 光 光

陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊

陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊

陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊

陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊

陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊 陸 軍 兵 隊

五

本一編八卷

現代人

國朝

長名

吳周家州海記五十二

人

海首二等兵曹

100

附錄

(一) 本廳管へ部局長又ハ職務取扱者等與地方復員局人事部長並通報スルニ事實任ニ於テハ揚シテヲス

下國ふる昔ノノミ山付記歌云

○軍制在師令特務士官、准士官、下士官兵三行配賦云

「前々其人、勿論留府に出る者ニ就イデモ記載ス

（四）（五） 中興二於出來ル張リ辭細ニ記載ス

五個人より四より承知シタル事誤ハ各該員備ニ相手方ヲ記載ス

17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 85

(用)

未 冊 通 者 等 の 番 号

高知縣

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

（昭和七年十月五日）

57-13

| 組長 | 副組長 | 事務 | その他 |
|--|---|---|---|
| 七、校舎の修繕
大、中、小、各一棟、及び校舎の修繕
五、校舎の修繕
三、校舎の修繕
二、校舎の修繕
一、校舎の修繕 | 五、校舎の修繕
四、校舎の修繕
三、校舎の修繕
二、校舎の修繕
一、校舎の修繕 | 一、校舎の修繕
二、校舎の修繕
三、校舎の修繕
四、校舎の修繕
五、校舎の修繕 | 六、校舎の修繕
七、校舎の修繕
八、校舎の修繕
九、校舎の修繕
十、校舎の修繕 |
| 六、校舎の修繕
五、校舎の修繕
四、校舎の修繕
三、校舎の修繕
二、校舎の修繕
一、校舎の修繕 | 五、校舎の修繕
四、校舎の修繕
三、校舎の修繕
二、校舎の修繕
一、校舎の修繕 | 一、校舎の修繕
二、校舎の修繕
三、校舎の修繕
四、校舎の修繕
五、校舎の修繕 | 六、校舎の修繕
七、校舎の修繕
八、校舎の修繕
九、校舎の修繕
十、校舎の修繕 |
| 五、校舎の修繕
四、校舎の修繕
三、校舎の修繕
二、校舎の修繕
一、校舎の修繕 | 五、校舎の修繕
四、校舎の修繕
三、校舎の修繕
二、校舎の修繕
一、校舎の修繕 | 一、校舎の修繕
二、校舎の修繕
三、校舎の修繕
四、校舎の修繕
五、校舎の修繕 | 六、校舎の修繕
七、校舎の修繕
八、校舎の修繕
九、校舎の修繕
十、校舎の修繕 |

57-14

高知縣

行

佐世保海軍生
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

情

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

留

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

所

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港
佐世保軍港

| <p>船形 二 故事 三 便 四 果 五 想</p> | <p>行 一 同 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二</p> |
|---|---|
| <p>一 船形 二 故事 三 便 四 果 五 想</p> <p>六 七 八 九 十 十一 十二</p> | <p>一 船形 二 故事 三 便 四 果 五 想</p> <p>六 七 八 九 十 十一 十二</p> |
| <p>一 船形 二 故事 三 便 四 果 五 想</p> <p>六 七 八 九 十 十一 十二</p> | <p>一 船形 二 故事 三 便 四 果 五 想</p> <p>六 七 八 九 十 十一 十二</p> |

5718

26613

職歴書簡

| 本籍地 | 現住所 | 所屬部隊 | 入國年月 | 官階 | 内地勤務開始年月日 | 配属開始年月日 | 備考 | 病名(受傷部位) |
|------------|-----|------|-----------|-------|------------|------------|----|------------------------------|
| [Redacted] | 全右 | チニ一六 | 昭和十九年三月一日 | 不明 | 不明 | 不明 | 不詳 | 腹膜炎 |
| | | | 昭和十九年三月一日 | 役種 二補 | [Redacted] | [Redacted] | | レイノチ軍収容所病院(確名不明) 昭和二十年十月中旬入院 |
| | | | | 兵種 二整 | 入籍書簡 | | | |

要請(受給) 又ハ戦死
時ノ状況

死亡年月日 昭和二十一年一月十七日午前一時十分
場所 東京市立病院

右申告ス

昭和二十一年十一月五日

| 本籍 | 現住所 | 所属部隊 | 氏名 |
|-----|-----|------|------|
| 東京府 | 東京都 | 陸軍 | 入籍番號 |

備考

一本國籍ハ部隊長又ハ要請取扱者等地方復興局人事部長宛通報スベキ
責任者ニ於テ知得シラス 認ムルモノミニ付記載ス
一吳佩在籍ノ時務士官補士官、下士官兵ニ付記載ス
一同期隊人ハ勿論他隊出身者ニ就テモ記載ス
一知得シタル範圍ニ於テ出来得ル限リ詳細ニ記載ス
一他人ヨリ聞ケテ承知シタル事項ハ各該書類ニ相手方ヲ記載ス

10256

| | | | |
|---------------------|-------------------|-------|-------|
| 現 職 階 級 明 示 | 本 籍 地 | 現 住 所 | 職 氏 名 |
| | | | |
| 一 職 死 年 月 日 | 昭 和 十 一 年 八 月 六 日 | | |
| 一 職 死 遺 葬 死 亡 區 域 | 八 公 野 死 | | |
| 一 職 死 補 所 | カ 口 カ シ 役 客 所 | | |
| 一 職 死 狀 況 | 創 傷 車 事 故 等 | | |
| 右 現 職 區 域 | | | |
| 昭 和 十 一 年 二 月 十 三 日 | | | |
| 調 査 官 姓 氏 名 | 南 田 幸 助 大 佐 | | |
| 大 佐 | | | |

海 軍

8 年 8 月

153

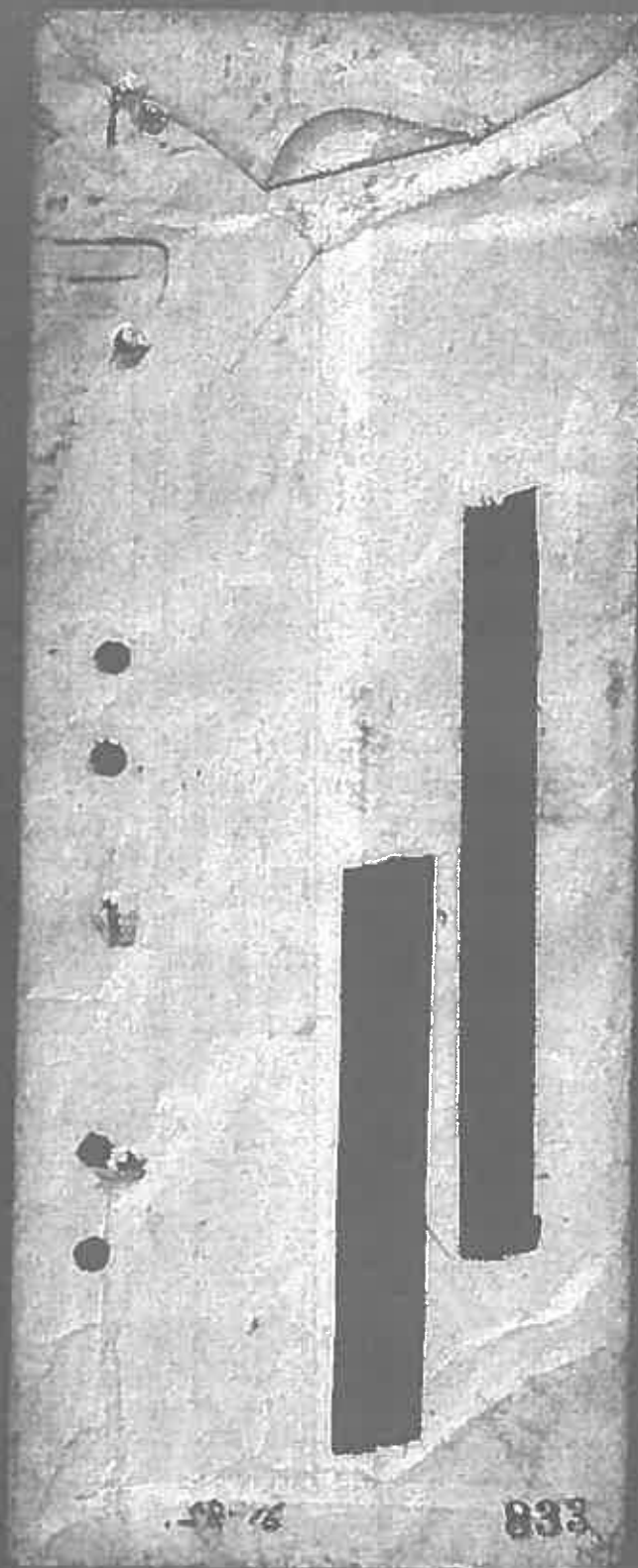


海軍
人事
部

15
中

舞鶴市

58-14 832



() 昭和 年 月 日

昭和二十五年八月十六日付書面に依る市岡合せの元海軍上等
水兵 [] 君に關する件、比律賓郡島ウミヤシ洲北サ

アムンチンド嶺敵のルン島上陸地点でありましたので上陸前空
爆、為同地は全焼したものであります。私は當時キャビデ海
軍基地に居りましたので斷然とは言えませんが其の爲當地の
患者等は戦死者が多い事と思ひます。亦戦死を免れた人
は病人であれば十中八九迄は戦死した者と思はれます。私
共の部隊は海軍百三上作部でありましたが昭和二十一年一月十二日
ころ、脱走二月一日に北ルン島のソラノ町に到着以後六月五日迄
はソラノ町の北部、四キロの所に滞在食糧の集積等して居り
ました。六月六日に愈々敵が近くに迫りましたので山間に逃
げ込みました。何分、私共の部隊は非戦闘部隊で百三海軍
工作部軍需部建築部、計理部等の職員工員並に海上

() 昭和 年 月 日

部隊の沈没艦艇からの残存で部隊で武器を持にない部隊で
ありまして山に逃げに様々次第です

終戦當時は北ルンソン山中に居りまして昭和二十一年九月

八日に [] (上建並に造船業)は九月十日山を出發せよとの

命令を受けまして九月十日に山を下りまして敵の收容所

に着いたが九月十二日最初の歸還は十一月始の頃にてせう、

自分等には少しも知れませんでした、又、私共は十二月二十九日マ

ニラを出、大野に上陸しゐるは十二月四日でした、 收容所は

有様は食事は割合に良い物は貰ひましたが何分量が少なくて

元氣を取りもむすに足らず、又はありませんでした、衛生は特

にやかまし、傳染病等は割合にあつたが前から山

で食物不足で病人があつたので、死亡者の數は相當多かつた

事と思はれます。

昭和 年 月 日

君の内は私の生れ在所で五軒位しか離れて居るまで
んから私が歸省當時、一應話してはしてあります。か子も
思ふ親心で、今でも歸つて来はせぬかと待つて居られる様
です。が私ほど大いに見込めてせうと話してはあります。私
の部も隊名は百三海軍工部部屬院で養仕官待遇を受
けて居ります。百三工部部内の土建工事、全部と不造船
建造百三建築部の大建土事の一部を受持ちまして
是れが御同合せに對する市返事であつます。

八月廿二日

鹿兒島縣民生部世話課第二復員科長殿

鹿兒島縣

戰死

豊岡丸に便乗海南島に向ケ航行
中バシ海峡に於て立寄甚沈没の際

比島

申告

就明書

原籍

氏名

出生地

昭和

生

石の省は比島が以て海軍の属として入敵中セテ島支敵
將連中が父海軍の島沖にて米艦隊の掃射の左め
戦死し左事を認めます

連輸五号に便乗

元

現在所

昭和七年四月八日

徳中野民生神世結釋

徳中

128-12

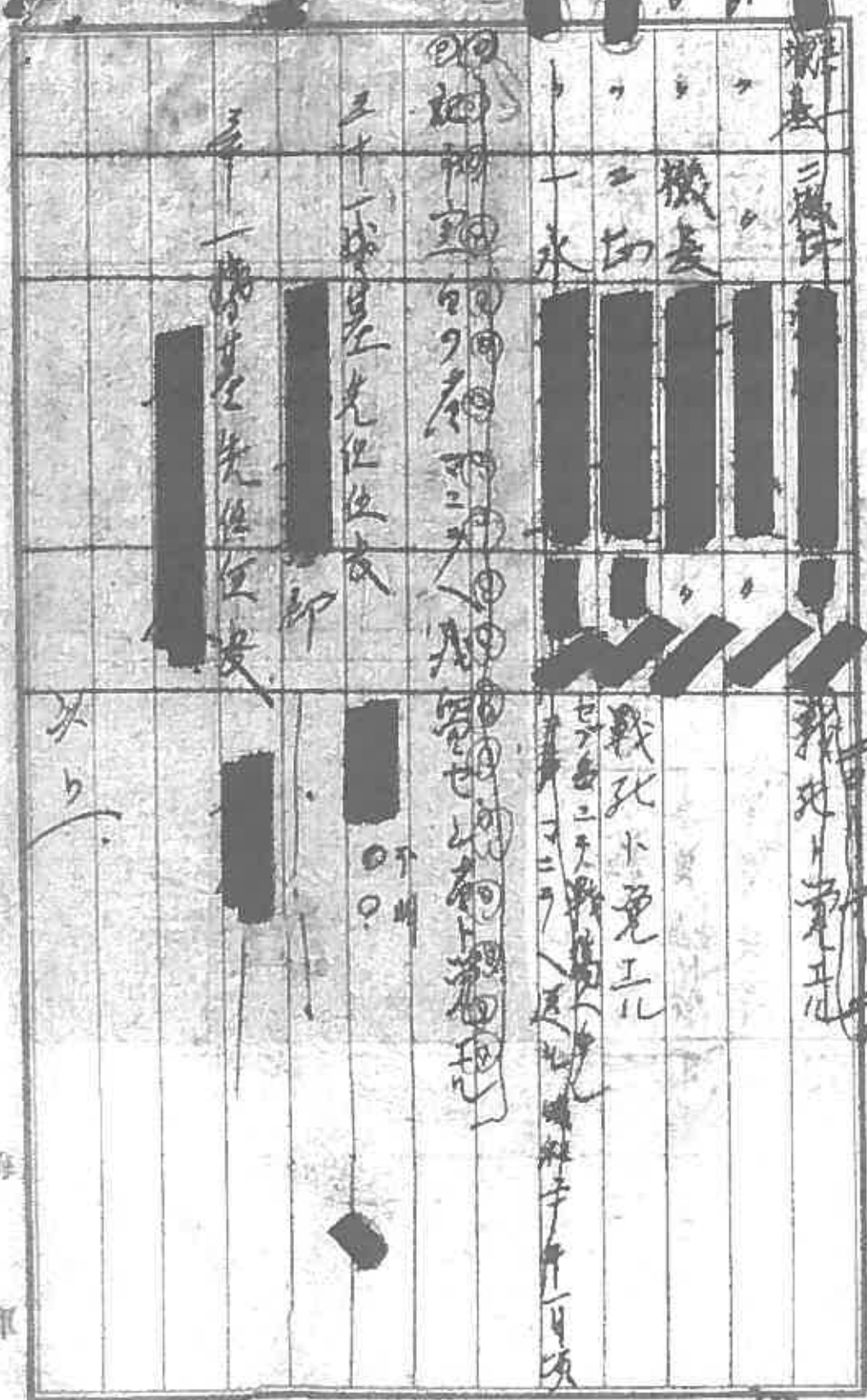
839

22-12-17.

（四）遊覽散記

1985

67309 67379 67333



SECRET

子久

300-10

142

新軍

(英) 對 日 通 商

昭和二十一年 五月 二日

戦死（戦病死）確認
確認當時ノ所
入籍官職氏名印

軍務
マニラ
運輸部

叙須賀地 次員局人事部長殿

戦死者補給ノ件報告

マニラ 運輸部

戦死當時ノ所
戦死者官職氏名
入籍

戦死年月日時刻

昭和 年 月 日

戦死場所

フィリピン上級モニタルパル

戦死ノ場所

戦死、戦病死、戦傷死

戦死ノ状況

マニラより東部岸に転送中飢餓により倒る

遺骨ノ有無及内地送還ノ方法 報告し得ず

戦死者本籍地

（判明又ハ記憶スル程度ニテ可）

遺族住所又遺族氏名 本籍地に於て

（死）

昭和二十七年八月三日

假設被害者入籍証書官署名印

假設被害者籍貫當時ノ所籍

親 佐 所

軍務

マニラ

漢編及地方復興局人事部長

假設被害者ノ件数

マニラ

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

一 假設被害者當時ノ所籍

アガスリ上流モントルパン

假死(假死) 假死(假死) 假死(假死)

東海地方に転送中 飢餓により倒る

東海地方に転送中

東海地方に転送中

東海地方に転送中

(別紙)

申告者

所轄

(現住所)
(連絡先)

等級

氏名

入籍
登録

整理
番号

等級

氏

名

入籍番号及び
入隊願年月日

在籍鎮守府
(軍部は
派遣の府)

最後
部隊名

出身
縣

入隊部で判つてゐないと思はれる戦死者
行方不明等の状況(月日)を記すこと

(記載例)

水長 山本 一郎

横志水
一五七〇七

横 鎮

一六
防空隊

岩手縣

私は一六防空隊に属し二十年一月十日
吳發「マニラ」に向け航行中二十年一月二
十日「マニラ」沖に於て雷撃を受け東洋丸
は沈没した。私は翌日(十一月)六〇〇
一號輸送艦に救助され「マニラ」に運ばれ
三十一特根に假入隊した
上記の者は東洋丸に乗船してゐたから多
分その際船と共に戦死したと考へる

申告者
水長

[Redacted]

水長
山本 一郎
横志水
一五七〇七

[Redacted]

私は一六防空隊に属し二十年一月十日
吳發「マニラ」に向け航行中二十年一月二
十日「マニラ」沖に於て雷撃を受け東洋丸
は沈没した。私は翌日(十一月)六〇〇
一號輸送艦に救助され「マニラ」に運ばれ
三十一特根に假入隊した
上記の者は東洋丸に乗船してゐたから多
分その際船と共に戦死したと考へる

トハ一八船の船主となり
 軍人友友那人者。と云いに
 同船一八島沖福岡航中、
 友那人船主が其度軍人に買収
 され同船長 [] 友日本人は朴親
 王、死体は海中に投ぜられ、
 トハ一八船帰港后友那人を引致取捕
 せ追及し、この石北境を自白せり
 此が罪状決け當時主命の副官
 [] 友人に通接 [] 戦死
 のことを詳細に述べられ、
 要領は北航大に行けり、
 公武友友及上軍官等類は朝鮮海
 全部没収され一切米穀類と有りたる
 物共の事は復々 []
 家族に申述べてありま可
 (効)

十月十五日送付

石世二集第二點ノ一九

軍人協會主編第三十一號

石州地方世話部第二模範校

[illegible]

爾考

「十月、延八月「マニラ」到着時一一六防空段（隊長韓大尉）村二〇四名であった

原在江口人舟

合計二〇〇名位は戦死した

「始め第一「ニコラス」飛行場にて配属され（現地戦線直下非島嶼に墜入）十九年十一月頃三
一機根に墜入、二〇年一月八日「カラバオ」島（「コレヒドール」島の南、マニラ湾口）に
お進した。■隊の外に■隊、■隊（何れも敵機）があり合計四五〇名位であつた
二〇年三月五日蘭軍に向ひ「カラバオ」島脱出戦車の流機隊とも合し「マニラ」街を越
て「マニラ」街東部出来ず八〇〇高地に立進つた。合計一三〇〇名位が蘭軍は約四五〇
名であつた

二〇年十月二十日下山投降した

「マニラ」島は蘭軍合せて二〇〇名位の生存者があつた（二機からの
情報（生存者約三〇〇）と符合した）

「マニラ」島方面情報は約一八〇〇名位と推定する（二機からの情報とも一致した）

大東航空隊は蘭軍を約一五〇〇名位と推定する

二機は「マニラ」島、三二機は蘭軍の消息を合せて進ずると言つてゐる

(三)

總付生

二機は蘭軍部隊在外の監視班
蘭軍管内南方而部隊を監視班

蘭軍管内各部隊第二後員隊